

■適正な原価を管理し、シンプルで標準化された業務プロセスへ

A社様は、約600の仕入れ先に対し、それぞれの担当者が仕入れ、発注を手配、Excel管理を行っていました。さらに、インボイス制度のスタートにより、受領する請求書の目視確認業務が発生し業務負荷が高まっていました。

現状

課題①

仕入価格が人によって変動する
→仕入価格が最適化されていない

課題②

様々なExcelが存在し、一連の情報バラバラに管理されている

課題③

600枚の請求書目視チェックについて業務負荷が高い

発注金額算出
(個人の知識)



発注書作成



発注一覧更新



請求書受領
(600先)



請求書目視
チェック



改革後

発注金額算出
(システム内の履歴)



発注書作成



発注データ置換



解決策①

調達部門での原価管理
→適正価格での発注管理

役割

解決策②

システムでのデータ管理
→Excel管理廃止、適正価格

システム

解決策③

請求書を廃止
(発注データを請求データに置換)
→目視チェック廃止

プロセス

KPI

- 業務効率化：5%減（発注に関する業務）／80%減（請求書チェック業務）
- コスト削減：10%減（発注コスト＝目標値）
- 満足度向上：設定なし